



GUNBOH

# 群 萌

第199号 2019年9月5日

発行所 全国化学労働組合総連合  
〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1  
ルースビル402  
TEL 03 (6452) 8806  
FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 寺前 敦司  
編集者 化学総連事務局  
gs03@kagaku-s.com

## ～海洋プラスチックごみと清掃ボランティア活動～

全国化学労働組合総連合 会長 寺前 敦司



連日のように海洋プラスチックごみについての報道を見聞します。この発端は、EUが2018年の5月末に使い捨てプラスチック等に関する規制案を提案したことにあります。ストローの話は有名で、フォークとスプーン、マドラーも対象となることは知られているでしょうが、綿棒と風船の棒も同じ扱いであることはあまり知られていないような気がします。

このEU規制に加えて、中国政府がプラごみ輸入規制を厳格化しアジア各国が追随した結果、日本のプラごみの10分の1程度が行き先を失ったこと、加えて2018年6月のG7にて、日本と米国が海洋プラスチック憲章に署名しなかったことが、この問題により一層拍車をかけました。焦ったか想定内だったかは知る由もありませんが、同年8月から19年2月までの間に、環境省ではプラスチック資源循環戦略小委員会を5回も開催し、化学総連も応じたパブリックコメントを経て、プラスチック資源循環戦略が5月31日に策定されました。そして6月のG20大阪サミットでは、この戦略の下で大阪ブルー・オーシャン・ビジョンが共有され、日本はマリーン・イニシアチブを立ち上げるに至ったのです。

このような政府の動きを最も支えたのは、化学総連加盟労組の母体企業も多く参画している(一社)プラスチック循環利用協会が、毎年公表している「プラスチックのマテリアルフロー図」と「廃プラスチックの総排出量・有効利用／未利用量・有効利用率の推移」であったと思います(<https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf2.pdf>)。どれだけの量の樹脂が国内で利用され、廃棄物となり、さらにその内どれ

だけの量がどのようにサイクルに回ったのかが一目でわかるこのグラフは、これまでの様々な努力の積み上げと今後の課題とを、同時に認識することのできる貴重な資料です。海洋に大量のプラごみを流出しているとされるアジアの国々には、このようなデータが存在せず、前

述のイニシアチブを通じて日本の統計手法が伝わることで、意識の改善につながるものと期待されています。

このように現在でこそ優等生ぶっている我が国ですが、1970年代以前をご記憶の方にとってみれば、若干面映ゆいですね。その当時は、海や川それから道路などにごみが当たり前のように捨てられていました。缶けりという遊びを随分やりましたが、その缶を買って調達した記憶もなければ、恥ずかしながら家に持ち帰ったという記憶もありません。みなさんも一度は目にしたことのある、空き缶をくずかごに入れている緑色のマークは1981年に制定されていて、当時のお行儀がいかに悪かったかを偲ばせます。

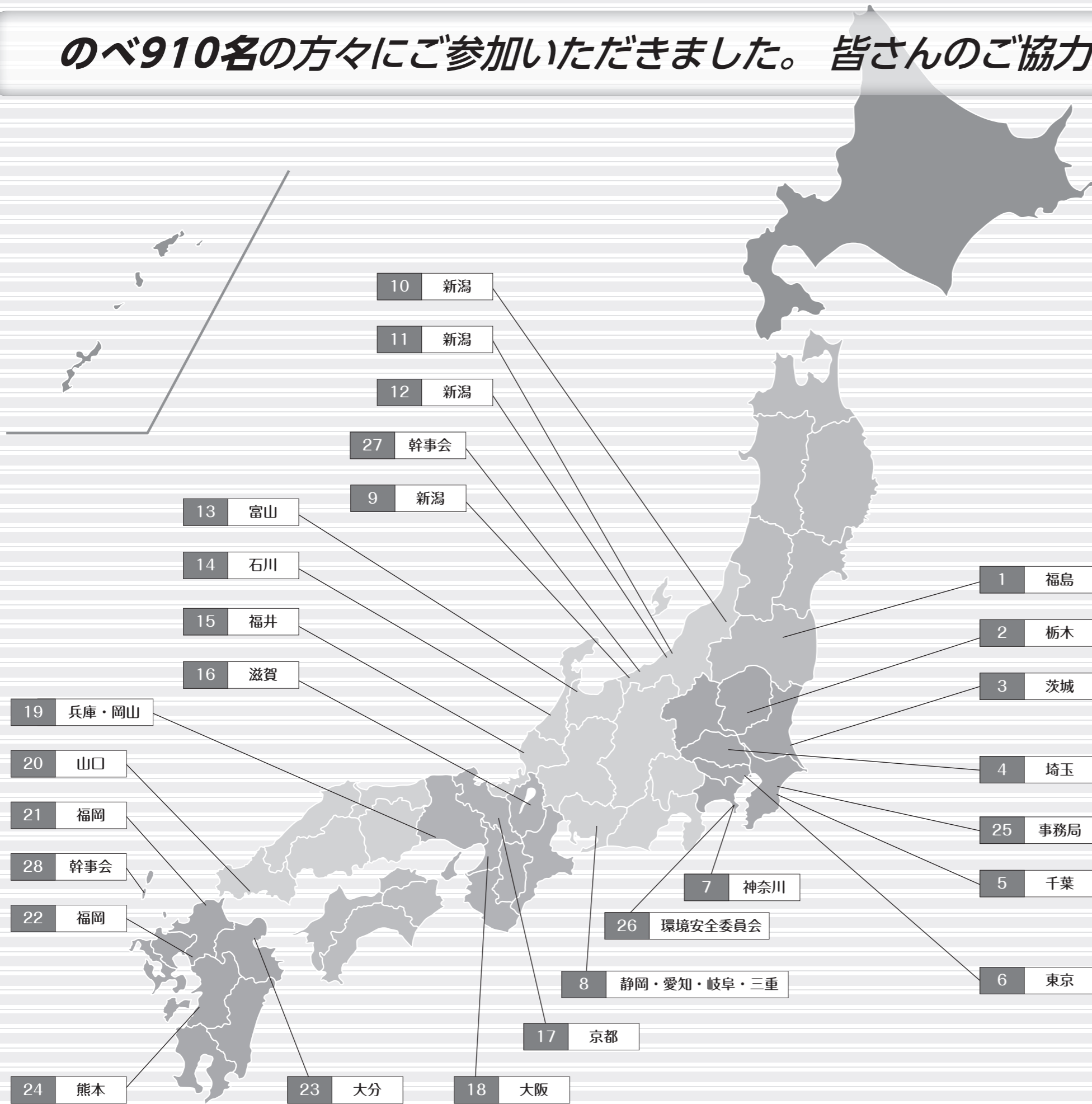
化学総連ではこの4月から7月までの間、地連役員の協力と延べ900人を超す組合員の皆様のご尽力を得て、北は福島から南は熊本までの各地で27回の清掃ボランティア活動を実施しました。参加された方の感想を平均すると、「一見すると綺麗だけど、よく見るとプラごみが落ちてるね」といったところでしょうか。アジアの国々から流れ着くプラごみの量に閉口する地域も確かにありましたが、レジャー客や近隣の住人が意図して捨てたとおぼしきものも数多く見受けられました。日本のやり方を教えると息巻いていますが、足元ではそんな事例があることも発信していかなくてはと考えさせられました。

ごみを出さない・捨てないといった啓発は大切ですが、効果を実感するには時間がかかります。それもやりつつ、「いま落ちているプラごみは日本から流れ出させない」というぐらいの気概を持つことが、ごみ先進国である我々に求められていると感じます。化学総連は、9月以降も清掃ボランティア活動を積極的に実施していきます。ご家族やご友人をお誘いのうえ、ぜひ奮ってご参加ください。



「プラスチックのマテリアルフロー図」「廃プラスチックの総排出量・有効利用／未利用量・有効利用率の推移」

のべ910名の方々にご参加いただきました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。



### 清掃ボランティアの実施状況

No.	地連等	実施日	場所等	参加者
1	福島	5月19日(日)	堀川ダム	46名
-	群馬	11月9日(土)(予定)	利根川	-
2	栃木	5月26日(日)	黒川河畔	33名
3	茨城	6月29日(土)	日川浜	116名
4	埼玉	6月5日(水)~28日(金)	各単組の事業所周辺	51名
5	千葉	6月2日(日)	一宮海岸	36名
6	東京	6月1日(土)	荒川河川敷 (NPO荒川クリーンエイド)	11名
7	神奈川	6月8日(土)	逗子海岸	19名
-	長野	検討中		-
8	静岡 愛知 岐阜 三重	7月21日(日)	堀川 宮の渡し公園	22名
9	新潟	4月13日(土)	須沢海岸	121名
10		6月22日(土)	麒麟山公園	15名
11			上下浜海岸	34名
12			黒井海岸	21名
13	富山	6月1日(土)	国分浜海水浴場	22名
14	石川	6月1日(土)	小舞子海岸	27名
15	福井	6月26日(水)	日野川	25名
16	滋賀	7月13日(土)	琵琶湖 松原水泳場	21名
17	京都	6月2日(日)	鴨川 (鴨川を美しくする会)	32名
18	大阪	6月8日(土)	大阪城公園	80名
19	兵庫 岡山	6月22日(土)	加古川河川敷	32名
-	広島	7月21日(日)(雨天中止)	青木海岸	-
20	山口	6月9日(日)	西岐波海岸・東岐波海岸 (リフレッシュ瀬戸内)	17名
-		7月21日(日)(雨天中止)	青木海岸	-
21	福岡	6月1日(土)	脇田海水浴場	20名
22			旧三池海水浴場	17名
23	大分	6月9日(日)	田ノ浦海水浴場 (大分県ライフセービング協会)	19名
24	熊本	4月26日(金)	水俣駅周辺	32名
-		9月1日(土)(予定)	八代 (列島クリーンキャンペーン)	-
25	事務局	2018年10月23日(火)	千葉県 蓮沼海岸	3名
26	環境安全委員会	4月2日(火)	神奈川県 多々良浜	6名
27	幹事会	5月16日(木)	新潟県 ヒスイ海岸	17名
28		6月5日(水)~6日(木)	長崎県 対馬市 (一般社団法人対馬CAPP)	15名

1 福島地連 (@堀川ダム)



2 栃木地連 (@黒川河畔)



3 茨城地連 (@日川浜)



4 埼玉地連 (@各単組の事業所周辺)



5 千葉地連 (@一宮海岸)



6 東京地連 (@荒川河川敷)



7 神奈川地連 (@逗子海岸)



8 静岡・愛知・岐阜・三重地連 (@堀川 宮の渡し公園)



9 新潟地連 (@須沢海岸)



10 新潟地連 (@麒麟山公園)



11 新潟地連 (@上下浜海岸)



12 新潟地連 (@黒井海岸)



13 富山地連 (@国分浜海水浴場)



14 石川地連 (@小舞子海岸)



15 福井地連 (@日野川)



16 滋賀地連 (@松原水泳場)



17 京都地連 (@鴨川)



18 大阪地連 (@大阪城公園)



19 兵庫・岡山地連 (@加古川河川敷)



20 山口地連 (@西岐波海岸・東岐波海岸)



21 福岡地連 (@脇田海水浴場)



22 福岡地連 (@旧三池海水浴場)



23 大分地連 (@田ノ浦海水浴場)



24 熊本地連 (@水俣駅周辺)



25 事務局 (@千葉県 蓮沼海岸)



26 環境安全委員会 (@神奈川県 多々良浜)



1. 海岸等にゴミを捨てないでください。  
2. この海岸周辺の陸上動植物および海岸動植物は、たいへん貴重なものであるので、許可なく採取を行わないでください。  
横浜岡市港海部

27 幹事会 (@新潟県 ヒスイ海岸)





対馬市の西側(大陸側)に位置する巖原町椎根の海岸



対馬市の東側(日本側)に位置する赤島の海岸

九州と朝鮮半島の間位置する長崎県の「対馬」。この対馬には、地理的な特徴や海流の影響によって、国内外から発泡スチロールやプラスチック容器を中心に大量かつ多種多様なごみが漂着します。国の海岸漂着物処理事業費補助金 年間予算30億円規模のうち、その1割に当たる約3億円がここ対馬に交付されています。

海洋プラスチックごみ問題の日本における最前線とも言える対馬。その海岸を実際に訪れてみると、想像していた以上のごみの多さに絶句してしまいました。対馬以外の清掃ボランティアに当方も何度か参加しましたが、国内の他の海岸は一見すると綺麗なことが多く、よく探してみても初めてごみが見つかりました。しかしながら対馬の海岸はよく探す必要がないほどにごみが目に付きました。我々がいくらごみを拾ってもきりが無いほどに膨大なごみがあり、無力感を覚えるほどでした。また、漂着したごみを拾いながらそのラベルに着目してみると、日本語ではなく中国語やハングルが書かれていることも多く、国内だけではなく国外からも漂着していることが実際に分かり、海はどこまでも繋がっていることを再認識させられました。あなたが捨てたごみも世界のどこかの海岸に漂着しているかもしれません。海洋プラスチックごみ問題を解決するには、世界中の人々が当事者意識を持つことが求められているように感じました。

(化学総連 事務局次長 白石雅秀)

# イノベーションワークショップ開催報告

去る7月1日(月)、川崎生命科学・環境研究センターにおいて、化学総連加盟単組で研究開発を担当する組合役員を中心に26名にご参加いただき、人と技術の未来研究会主催による「イノベーションワークショップ」が開催されました。

イノベーションワークショップは、企業の将来を左右すると言っても過言ではない研究開発に従事する皆さんの日頃のご苦勞やプレッシャーに対して、少しでもヒントやモチベーションになるような「場」や「情報」を提供できればという目的を持って、約2年の時間をかけて慎重に構想・企画・準備・調整を行いながら、ようやく開催までこぎ着けることができました。



司会の横後事務局長



人と技術の未来研究会 吉井委員長



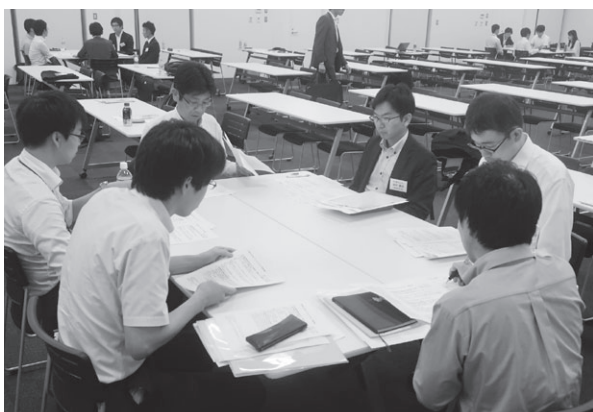
ご講演いただいた経産省 山下氏



ご講演の様子

当日は、吉井副会長(人と技術の未来研究会委員長)による活動報告の後、経済産業省産業技術環境局総務課山下氏より「パラダイムシフトを見据えたイノベーションメカニズムへ」というテーマでご講演をいただき、研究開発やイノベーション創出に対しては国や行政からも非常に大きな期待があることを感じる事ができました。

その後、参加者による分科会において、研究開発を促進させるための「働き方の制度や工夫」について意見・情報交換を行いました。



分科会の様子(A班)



分科会の様子(B班)





分科会の様子(C班)



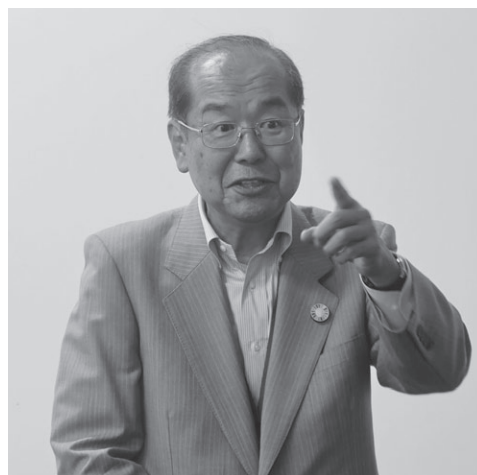
分科会の様子(D班)

最後に、ナノ医療イノベーションセンター副センター長の岩崎廣和氏(元化学総連会長、元昭和電工ユニオン中央執行委員長)による「体内病院」を基本コンセプトとする最先端ナノ医療の研究開発スキームについてのご説明をいただき、施設見学を行いました。オープンイノベーションの最前線を目の前で見ることで大きな刺激を受けるとともに、岩崎さんの人を引き付ける熱意や魅力的なプレゼン技術も大いに勉強になりました。

化学総連として、「イノベーション」「研究開発」をテーマにした「参加型」の行事は初めての取り組みであり、開催まで手探りの部分もありましたが、参加いただいた皆様の反響は非常に大きく、今後是非継続して欲しいという声を多数いただくことができました。

人と技術の未来研究会では、こういった「化学総連ならではの活動」をどの様にブラッシュアップしていくことができるのか、引き続き検討をしていきたいと思えます。

お忙しい中、ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



ナノ医療イノベーションセンター  
岩崎副センター長



ナノ医療イノベーションセンターにて集合写真